

2月

カトリック麹町教会

# MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ ともに歩もう



## 聖イグナチオ教会ってどんな教会？

聖イグナチオ教会 講座担当 シスター野本佳子 (援助修道士)

現聖堂が献堂されたのは1999年、今年は25周年を迎えます。現在、教会に関係している方々は教会の歩みとともに聖イグナチオ教会の信徒として成長し、教会の歴史を築いてこられました。私も一人の信徒として、修道者として聖イグナチオ教会につながってきました。教会は新しい信徒を迎えて刷新されていきますが、その人々は聖イグナチオ教会の一員となり、先に歩んできた人々とともに教会の歴史を築き続けていきます。

国際色豊かな教会として

日本社会では宗教一般に對する否定的な見方や宗教が絡んだ事件などがあると、宗教を避ける人が多く出てきますが、教会を訪ね、キリストの教えを知り、受洗に至る道へと歩む求道者の方々の中に、真実を求めると神がこの現実の中で働いていらつしやるのを感じます。日本人の半数以上が信じている宗教はないと答え、神を信じないという人は、日本人の29%です。キリスト教の神に向き合い、信じることは日本人にとつて難しく、キリスト教信者は日本総人口の1%で、その中でもカトリック人口は0.3%です。

このような日本社会、教会の中で、聖イグナチオ教会に集まる人たちは他の教会の中でも突出して多いです。しかも、国際色豊かで、英語ミサが終わった頃には、日本の中の教会と思えないくらい多い多国籍の人で満ち溢れています。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16:15)とおっしゃるイエスのことばはすでに成就されたかのような錯覚に襲われます。

しかし、福音宣教とは何でしょう？ 人になられた神、イエス・キリストに出会い、主イエスに従う生き方を見いだし、救いを体験していくことだと思えます。約50年近くいくつかの小教区教会で修道者として働き続けてきた私は、福音的価値観よりもこの世的価値観が強い現代日本社会に「人になられた神」の存在、神の愛を示すことは、精神的な苦しみの中にいる人々に必要だと感じています。日本は表面的には平和に見えても、日本人の幸福感は世界の中で低く、幸福感のなさは若者の死の原因として挙げられています。

### ともに歩み、現代社会の必要に応える

聖イグナチオ教会は2017年から「ミッション2030」の名のもと①祈

りを深める ②福音を伝える ③共同体を生きる ④新しい協働—を4つの柱として、「出会い、聴き、識別する」というシノドス(世界代表司教会議)の3つの特徴を実践している。「ともに歩む教会」といえます。不完全な人間の集まりである教会の中心にイエス・キリストがいらつしやり、神の母である聖母の御守りの中でイエスにつながつて神を求めて生きようとする聖イグナチオ教会は、現代社会の必要に応えようとしている教会の一つだと私は思います。

### 教会報 MAGIS 2月号

† 教会黙想会	P2~3
† 冬の教会行事とミサ	P4
† 教会活動グループ便り ⑨	P5
† 〈現聖堂25周年記念連載〉 聖イグナチオと私 ①	P6
† Family of St. Ignatius ~ベトナム共同体から~	P7

【2月の共同祈願】

†2月3日(土)18:00～2月11日(日)18:00

病い、孤独にあっても  
神さまがともにご一緒に  
祈り支えることができますように。

†2月17日(土)18:00～2月25日(日)18:00

四旬節を迎え節制の日々を送る私たちが、  
認め合い、ゆるし合いながら、  
新しい恵みを神さまからいただける  
復活祭を迎えられますように。

【ミッション2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、  
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。  
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、  
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい  
反福音的なものに脅かされています。  
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、  
いつくしみの扉を開いていきます。  
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、  
貧しい人や弱い人の声を聴き、  
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、若いも若きも)、  
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

教会黙想会

「あなたに、話がある」  
教皇フランシスコが目指すシノドスの教会

11月23日(木・祝)13時より、教会黙想会が行われました。主聖堂の参加者117名、オンライン視聴者とともに、ホアン・アイダル神父(上智大学神学部教授)のご指導のもと3部構成(講話・黙想・霊的対話)で開催。「霊的対話」は昨年10月ローマで開かれた世界代表司教会議(シノドス)でも行われたもので、ミサも含めて約3時間半、ともに歩む教会として充実した黙想の時を過ごしました。(YouTubeにて配信中)

はじめに「聖霊への祈り」を参加者全員で唱えました。

講話

シノドスの教会を求め

教皇フランシスコは、教会を昔から「シノドス」と呼ぶ習慣をもとに、教会の刷新を呼びかけています。教皇が神からいただいた恵みである2つの言葉、「ともに」と「歩むこと」を挙げて黙想の材料にしたいと思います。

まずは「歩むこと」。教会は歩かないと病気になるります。教皇フランシスコが選出された時、彼は、次のように提唱しました。「さまざま



教会の問題を解決するため「歩きましょう」。また神さまからの声(ミッション)を聴くには動いて変わらなといけません。「変わらな教会は流れない水のようなもの」なので、動いて耳を傾け、よく祈りましょう」  
もう一つは「ともに」です。シノドスの教会は「聴く教会」で、「ともに」とは「よく集まり、聴く事」で、その

ためには3つの相手に耳を傾けなければなりません。ともに歩む教会

教皇が初めて「シノドスの教会」の説明をされた時に、ルカ6:12-19を引用しました。この箇所には以下の3つが啓示されています。

1 神に耳を傾ける

さらに教皇は、ルカ5:4-6からの引用を加え説明されました。この時の弟子たちは私たちが今、置かれている状況に近かったのですが、ペトロがイエスに耳を傾けたことで最善策を見つけました。教皇はこれを「識別」と言う言葉で表され、聖イグナチオが勧めた一人ひとりの「良心の究明」と次に説明する私たちが全員が共同体として働くことを求めています。

2 他人の声に耳を傾ける

「シノドスの教会では、共同体全体がその構成員の自由で豊かな多様性の中で祈り、耳を傾け、対話し、神のみ旨にできるだけ忠実に対応する司教的決定のための助言を提供するように求められている」  
教皇フランシスコ

教会は皆さん自身であり、神さまの啓示はたいい小さい人から始まります。なぜ多くの人たちの声が聴こえないのか考える必要がある、それを祈りつつ神さまに聴いてみましょう。

3 世界に耳を傾ける

私の住む街のどこに、福音はまだ届いていないだろうか？

司牧的回心  
司牧に携わる者がつねに「出向いて行く」姿勢であるよう励ますことです。  
『福音の喜び』第一章27

自分の問題にとどまらず「出かけて行く教会」すなわち「自分のことは差し置いて、人の苦しみに耳を傾けなさい」。耳を傾ければミッションが与えられると教皇は説かれています。「司牧的回心」とは人のために生きる教会。その態度があれば、ミッションが与えられ、歩むことができ、色々な病気が治るかもしれません。

黙想

休憩の後、20分ほど黙想の時を過ごしました。

霊的対話

アイダル神父は教皇フランシスコが強調されている「霊的対話」は、「教会刷新のために人々の声を聴き、神さまの声をよく聴くこと」と話しました。

「霊的対話」は3つのラウンドで行われます。頭で考えているのではなく心の動き、神さまの声、人の話を聴いて響いたことを第1・2ラウンドで分かち合います。最後に、聖霊の語りかけていることに耳を傾けます。黙想のあと、10のグループに分かれ、ヨセフホールとアルペホールで「霊的対話」が行われました。

霊的対話（共同識別）

積極的、受動的に耳を傾ける。  
そして、もっとも深く心に触れたことを言い表す。  
— その両方に特徴づけられた交流。  
一人ひとりの、また共同体における霊の動き。  
信仰、希望、愛を強める慰めの道を選ぶために。

霊的対話のための2つの大切なスキル

a) 「考え」ではなく「心の動き」を分かち合います。

・ 考え、概念、思ったことではなく、「祈りの実り」  
「心の動き」を分かち合います。

・ 自分のうちに、どのような動きがあったでしょう。か。なくさめですか。すみですか。

・ 自分の祈りの実りのうち、もっとも大切だと思われるものは何ですか。

・ 聖霊は何を分かち合うように、私を招いておられるでしょうか。

b) 聖霊やその愛を味わいながら、偏りのない心で人の話に耳を傾けましょう

・ 一人ひとりのうちで働かれる聖霊の現存を意識しながら、ほかの人の分かち合いに注意深く耳を傾けるために、執着心や利己心、偏見などを取り去って、心と精神を自由にします。

・ 他の人に耳を傾けながら、自分の中の心の動きに注意します。

3つのラウンドによる霊的対話

【第1ラウンド】

それぞれが祈り（黙想）の中で体験した心の動きを分かち合います

「第2ラウンド」  
第1ラウンドでほかの人の分かち合いに耳を傾けていた時に体験した心の動きについて、一人ひとりが分かち合います  
「ほかの人の話を聴いて、何が心に残りましたか。心に響いた点を簡潔に話します。」

【第3ラウンド】  
聖霊は私たちに何を語っておられるでしょうか  
各グループに対して、神さまは何をおっしゃっていると思いますか。

各グループのファシリテーターからの報告の抜粋

・ 心に響いた言葉は「ともに」「祈りながら働く」「よい知らせを届ける」でした。最後に沈黙してともに祈りました。この時、一つに結ばれた気がしました。お互いの距離が近く、静かに落ち着いて話し、聴くことができました。

・ 今日の黙想会が「霊的対話」により、より豊かな実りとなりました。その実りはグループの人数によらないことを実感しました。

・ アイダル神父の講話から皆さんが驚くほど同じことを感じており、心の動きを伝え合うことができました。「霊的対話」の時間が持てたことを喜ばれ、出合いに感謝される方が多かったです。「分かち合いではなく『霊的対話』を続けていきたい」、「常に自分の祈りが本当に聖霊に導かれているものかどうかを神に問いかけていきたい」など、心の動きが同じだったことに神のみ旨を感じました。

・ 決められた時間内で、個人的な話ではなく「霊的対話」をしている皆さんのイキイキとした表情が印象的でした。

ミサ

「霊的対話」に続き、アイダル神父司式のミサが主聖堂で行われました。福音朗読（ルカ19:41-44）の後、イエズス会の3人の福者について話をされました。

「今日は独裁者の迫害で殺された南米のイエズス会司祭をお祝いしています。メキシコのミゲル・プロ神父は厳しい迫害の中、出国を勧めた管区長に『人を置いて行くことはできません。〇〇おばあさんも〇〇さんも守る人がいません』と言いました。それぞれの具体的なストーリーも印象的です。いつも喜び、ユーモアを忘れない、この人こそイエスの本物の弟子です。人の苦しみを感じ、人の声を聴く心があれば、何をすべきかは神さまが教えてくれます」



冬の教会行事とミサ

主のご降誕おめでとうございませう！

●クリスマスミニバザー

11月26日(日)・12月3日(日)

今年度は初出展2組と復活出展1組を含む9グループが出展。進行・警備・募金に4グループの協力を得て、2日間開催しました。製作品・収集品・福祉団体の支援の品など頒布品は多彩。2日目は英語圏から若者の歌声の応援もあり、世界の生活困窮者に向けて信徒の皆様の「愛」がたくさん集まりました。感謝申し上げます。(2023年度クリスマスバザー実行委員)

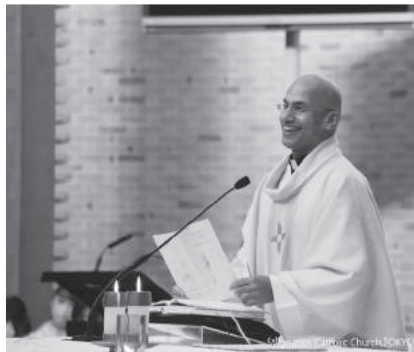
●子どもと家庭のクリスマスミサ

12月23日(土)13時半

主聖堂にて。司式はボニー・ジェームス神父。聖書朗読に代わって中学生による聖劇が行われ、約600名が参加しました。

ミサ説教でボニー神父は「今年のテーマは『ステラ』(ラテン語で星)です。」

イエスさまが生まれた夜、星は羊飼いや博士たちの道しるべとなりました。私たちにもさまざまな星(両親、教会学校のリーダーなど)がいますが、一番大きな星は神さまです。絶対頼りになる存在なので、悩んだ時には迷わず進めるように、神さまに感謝して祈りを捧げましょう」と話されました。



●主の降誕夜半のミサ

12月24日(日) 19時 キャンドルサービス\*

(15時、17時もあり)

参列者全員がろうそくに火を灯し、静けさの中でミ



たことを喜び感謝する日、それがクリスマスです」と話されました。閉祭の聖歌のあと、トランペットの高らかな音が主のご降誕を祝福しました。

●主の降誕日中のミサ

12月25日(月)10時\*

(7時、8時半、18時もあり) 司式の高祖神父は『聖書と典礼』の表紙の絵を手がかりに主のご降誕について解説され、その意味を皆で味わいました。「日本ではよく、人間は人間だから尊い」という言い方をしますが、人間は神の似姿であることが人間の尊さの根拠なのです。キリストの血によってあがなわれた存在であるからこそ、どんなに苦しい状況になっても私たちに希望がある。神の

もとで、神の子として生きるその希望が与えられている。これが今日の主のご降誕の意味なのです」としめくられました。そして、主の平和と救いが世界に染み渡るよう、ミサの中で祈りを捧げました。

●神の母聖マリアの祭日ミサ

1月1日(月)10時\* (0時\*、7時、8時半、18時もあり)

司式のハビエル・ガラダ神父の説教は、新年の挨拶から始まりました。福音朗読のあとは「いつも祈りなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。聖霊の声に従うようにすれば、結果的にいつも喜んで生きることができま」と説きました。

「愛を持って何事にも喜んで行うこと」を、今年の方針とすることを提案。私たちの生活の中で「努力よりも喜べる根拠、理由」を心から引き出し、「何事も心を込めて感謝しながら喜んですれば、この年は有意義で豊かな年になると思います」と締めくくりました。



\*は動画配信あり

# 活動グループ便り ⑨

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

## 日曜サロン

### 信徒同士がつながる きっかけづくりを

主日のミサ後のひと時、信徒同士がつながるきっかけづくりのお手伝いを意識して、日曜サロンのスタッフは活動しています。

特に新受洗者、久しぶりに教会にいらした方にとって、共同体への帰属感をもつためには仲間づくりが欠かせない要素のひとつです。例えば、主日のミサに与った後、余韻を分かち合える仲間がいればより豊かな一週間がスタートできるのではないのでしょうか。

また、日曜サロンでは、奉仕活動や講座等の情報収集、あるいは信仰生活上の質問にもおこたえできるように、関連活動グループスタッフとの連携も強化しています。

※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。

さらに、サロンにお越しくださる先輩信徒の皆様には、主旨をご理解の上、初対面の方々へのお声かけにご協力いただければ幸いです。

気軽に立ち寄りいただけるには、サロンのムードづくりも大切な要素です。スタッフの良いチームワークから生じる明るい笑顔はもとより、心身を癒やす音楽、美しいハーブティーのサービスにも力を注いでいます。

皆様のお越しをスタッフ一同お待ちしております。

**日時**：基本第2・第4日曜 11時〜12時30分  
**場所**：ヨセフホール



## 聖歌隊

### 来たれ！歌うカリスマ！

月たて琴をかきながら、わたしは神をほめ歌う♪  
今日も、カトリック麹町聖イグナチオ教会に、賛美と感謝の歌声が響きます。

日本語のミサ典礼に仕える聖歌隊は6グループ。  
葬儀や追悼ミサで奉仕する《典礼聖歌隊》。毎木曜日の90分の特練で備えます。

偶数月第一金曜日の夕刻に、福音朗読と黙想、聖体賛美式による「初金の祈りの集い」の中で歌う《初金聖歌隊》。

主日のミサで奉仕するのは、4グループ。土曜日18時のミサ《土曜聖歌隊》。日曜日8時半のミサ《シャローム聖歌隊》。10時のミサ《チェチリア聖歌隊》。18時のミサ《テレジア聖歌隊》です。それぞれの聖歌隊が固有の伝統やカリスマを秘めています。役割は唯一つ。麹町教会の聖歌隊として、母なる教会が切に願っている使命、「会衆に寄り添い、感謝と賛美の歌をリードして支えること」です。

復活祭やクリスマス等の大きなミサでは、合同聖歌隊が編成されて、まさに、麹町教会の一つの聖歌隊となります。

また、皆さんがミサの中で歌われる聖歌を選曲するのも、聖歌隊の役割です。

未来に向けての抱負は盛りだくさん。詩篇朗唱者と指揮者の育成、歌唱ミサの復活も待たれます。新しい葡萄酒・歌うカリスマ、来たれ！古い革袋を破って新風を吹き込んでほしいと願います。



## 木村美智子信徒 入門講座・信徒養成講座

### キリスト者の生き方を 深く味わう

毎週日曜10時のミサのあと、開講している入門講座「**薬**」。未受洗者、受洗後間もない方、受洗から長い年月の方など、約20名前後の方が参加。長年山口カトリックサビエル教会に在籍し、2012年に当教会に転入していらした木村董太郎・美智子夫妻による講座でしたが、2023年1月に董太郎氏が帰天なさったため、現在


在は美智子さんお一人で講座を継続しています。

講座ではその日の主日のミサ「聖書と典礼」の3つの朗読のつながりなどを学んでいます。その後に、聖書を中心にキリスト者として生きる意味など深く味わっています。副教材としてルイス・カンガス神父著書「光と希望」を使用。昨年12月には受講者が高祖敏明主任司祭から受洗し、その式の前には今年の復活祭に受洗希望の方の入門式もしていただきました。

また、毎月第1・3日曜は、信徒養成講座も開講。これまでは英隆一朗神父の「道しるべ」を、今は「イグナチオの足跡をたどって」を用いて「霊操」を学び、分かち合いをしています。どちらの講座も皆、熱心で受講が長引くこともしばしばです。和やかな雰囲気の中、カトリックの教えとみこばを学ぶ場となっています。

**日時**：入門講座 毎日曜 11時15分〜12時30分  
養成講座 第1・3日曜 13時30分〜15時30分  
**場所**：岐部ホール309





(現聖堂25周年記念連載) 聖イグナチオ教会と私①

## 大学と教会の「二足の草鞋」を30年以上… 召し出しに一生かけて応えていく

岩島忠彦 神父

私が聖イグナチオ教会と初めて関わったのは、18才、上智大学でラテン語を学び始めた時でした。小学校5年生で父を亡くし、家族は母方の親戚の多い神戸に移り住みました。地区の中学校で暴力事件が報じられたなどをきっかけに、イエズス会経営の中高、六甲学院に進むことになりました。高校一年生の時に洗礼を受け、卒業時にはイエズス会入会の意志を固めていました。そのため上京し、当時上智大学の学内にあった男子寮で2年間を過ごし、その間、土曜日には聖イグナチオ教会の子どもたちの土曜学校でリーダーを務めました。当

時のスタッフは、上智大学だけでなく、東京大学をはじめ在京大学の学生たちでした。信者の小学生と関わり、学生同士の密な関係は、自己形成のための大きな助けとなったと思います。当時の主任司祭はヘルマン・ホイヴェルス師、今となれば伝説的とも言える方でした。

再び聖イグナチオ教会と関わり始めたのは、39才。上智大学神学部で教義学（キリスト論・教会論など）を教え始めたのと同時です。その時、私は主任司祭のルイス・カンガス神父様を訪ね、次のように申し上げました。「私は大学の先生になるためにイエズス会に入ったのではないから、日曜日に教会で働かせてください」と。彼は、日曜学校に子どもを連れてくる若いお母さん方に聖書を教えるようにと言って下さいました。私もまだ若かつたので、聖書のページを開くにもモタモタしているお母さんたちに驚きながら、簡単なお話をしました。

3年経った時、自分の「信仰入門講座」を持たせていただきました。日本にはキリスト教徒が少ないので、少しでも信徒が増えることに貢献したいと思ったからです。それ以来、この講座はずっと続いており、毎年、復活祭の頃に10名から10数名の方々 が洗礼をお受けになります。

上智大学で働き始めてから7年、大学ではサブタイカル制度というのがあって、一年間休みが与えられます。その年、私は聖イグナチオ教会のコミュニティーに移り住み、教会の仕事に与らせていただきました。主任司祭から、信者の方々にキリスト教の概要を一年かけてお話しするように言われ、天地創造からキリストの教えと行い、教会の使命と秘跡、信徒としての生き方などについて信者の方々に話しさせていたいただきました。同じ話を、週に2回、かなり多くの方々 に聴いていただきました。これをきっかけに、「信徒の月例会」を立ち上げ、これも今

日に至るまで続いています。この2、3年は福音書を一節ずつ丁寧に読んでいます。このようにして、大学で教えると同時に聖イグナチオ教会で講座を担当する、いわば「二足の草鞋」の生活を30年以上続けていました。しかしそのことは、私にとって相乗効果をもっていったのではないかと思います。大学でキリスト教の教えを学問的に教え、教会でそれを生身の人々に伝えようと努めてきた、つまり客観的な知識は教会での働きを堅固なものとし、現実に触れることに大切なのかを示唆してくれるように思ったからです。

上智大学でイエズス会員は、70才で定年を迎えます。私は定年後、福岡のサン・スルピス大神学院でさらに4年間、神学の講義をさせていたいただきました。74才で福岡での講義も終わり、それ以降、自分に残されたのは、毎週の入門講座と月1回の信徒講座、それに月2回ほどの主日のミサでした。ある意味、自分が18才で決意した「司祭になる」という思いを、「二足の草鞋」ではなく、

純粋に果たすことのできる環境に置かれたと言ってもよいでしょう。

数ヶ月前に、私は80才になりました。昔、母が「歳を取ることは初めてだから……」とつぶやいたことを、最近何度も思い出します。このごろ、腰が痛み、あまり長くは歩けない状態で、教会への行き来も、近くの信者さんが車で送り迎えして下さっています。その方が不思議なことに、はじめに関わった日曜学校の若いお母さんだった方です。彼女も歳を重ね、「お互いに歳を取ったね」と言い合っています。

これからもできる限り神さまが私に与えて下さった召し出しの招きに応えていきたいと思っています。召し出しは、一生かけて応えていくものであると改めて感じる日々です。

私たちキリスト者は、それぞれに与えられた自分の道を、み旨に耳を傾け、み旨に従って、一步一步、最後まで歩いて行くように召されているのだと思います。

「主よ、あなたの道を示し、あなたの小道を教えてください。」



**Family of St. Ignatius**

~ベトナム共同体から~

皆様、明けましておめでとうございます。  
 アン・ベトナムセンターは昨年、いろいろな活動を行いました。特に、今年も、ヨセフホールとテレジアホールの間に築いたクリスマスの馬小屋はベトナム人青年会の作品です。聖イグナチオ教会からの温かい受け入れ、青年たちが教会に喜んで毎年馬小屋を作ろうと考えています。この伝統をこれからも続けていくことを心から願っています。そして、コロナ禍を乗り越え、ミサへの参加者が増加していることも喜ばしいニュースです。こ

の流れを受け、クリスマスのミサは上智大学の講堂で行われ、特に若者を中心に約2,000~2,500人の参加者が集いました。年末には、グエン・タン・ニャー神父の指導のもと、青少年向けの黙想会、感謝のミサ、在日ベトナム人家庭の子どもたちのための教育プログラムなど、多くの有意義な活動を実施しました。  
 聖イグナチオ教会現聖堂25周年を迎えるにあたり、ベトナム共同体はミサやその他のプログラムへの準備と協力を進んで行いたいと考えています。  
 今年もよろしくお祈りします。(アン・ベトナムセンター)

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(1月11日開催)

現聖堂25周年記念事業について早めの周知を行うため、ポスターの掲示を始めました。記念ミサや、年間を通じて行われるさまざまな企画・イベントの日程および内容をお知らせしていきますので、ご覧ください。

ミッション 2030 黙想と分かち合い  
 ~祈り・つたえ・つながり・ともに歩む~  
 小さな私たちの分かち合い

「キリストの体である教会」

開催日時：2月18日(日)13:30~15:30  
 場所：ヨセフホール

プログラム：①高祖敏明神父の講話  
 ②黙想  
 ③霊的対話

現聖堂 25 周年を迎えるにあたり、高祖神父から「キリストの体である教会」をテーマに、お話をさせていただきます。教会の意味、教会を通していただいている恵みなどについて考えてみませんか。神父さまの講話を聴いて黙想し、その後、霊的対話を行います。

\*詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシでご確認ください。

●四旬節黙想会●

日時：3月20日(水・祝)  
 10:00 ~ 講話・黙想 12:00 ~ ミサ  
 場所：主聖堂  
 指導：佐久間勤神父(イエズス会日本管区長)

事前予約不要、YouTube 配信あり  
 \*詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシをご覧ください

●カレーの会より●

昨年12月25日に、皆様からの献品のご協力により、254人の生活困窮者の方々にクリスマスプレゼントをお渡しすることが出来ました。  
 2023年は10,033人の方々にカレーを届けました。献品だけでなく温かいメッセージも頂き、スタッフ一同、心より感謝御礼申し上げます。

●クリスマスミニバザー報告●

昨年11月26日(日)と12月3日(日)に行ったミニバザーは、9グループ出展、4支援グループと英語圏若者の音楽グループの協力で無事終了しました。頒布金・募金は共に当教会を通じ、釜が崎・旅路の里(所長：英隆一朗神父)とイエズス会難民サービス(JRS)に寄付いたしました。海外については地域を特定せず、迅速に効果的に使っていたようにJRSにお任せしました。

ミニバザーも3年目となりますが、初出展や復活出展のグループもあり、どのグループも熱い思いで取り組んでおられました。皆様のご理解とご協力に、心から感謝申し上げます。頒布金、募金の明細は以下の通りです。

頒布金	977,854円	} < 寄付額 >		
募金	403,477円		釜が崎・旅路の里	500,000円
合計	1,381,331円		イエズス会難民サービス(JRS)	881,331円

2023年度クリスマスバザー実行委員会

●財務報告●

- ・11月19日(日)「ミャンマーデー」の献金 919,281円を東京教区を通じてミャンマーの教会へ送金しました。
- ・12月3日(日)「宣教地召命促進の日」の献金 806,165円はローマ教皇庁へ送られ、全世界の司祭養成のために使われます。
- ・2023年の司祭召命のための一粒会への献金は1,503,396円になりました。皆様のご協力に感謝いたします。

●あしたのいえプロジェクト●

「あしたのいえプロジェクト」では生活困窮にある方、難民申請中の方などへ一時的な住まいを提供する活動を行っています。2023年は年間で120万円を超えるご寄付にも助けられ、17家族、計26名の皆様に清潔で安心安全なお部屋をご利用いただくことができました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。今後もご寄付をお願い致します。

【郵便振替】00110-4-252741 聖イグナチオ教会  
 通信欄に「援助・福祉献金 あしたのいえプロジェクト」とご記載ください。主聖堂後方にも専用の献金袋がございます。是非ご活用ください。

## 2月の典礼と行事

1 (木)		
2 (金)	主の奉献の祝日 初金曜日	祈りの集い 19:00
3 (土)	福者ユスト高山右近の記念日	
4 (日)	年間第5主日	新受洗者と転入者のためのオリエンテーション 10:00 ヨセフホール
5 (月)	日本26聖人殉教者の祝日	
11 (日)	年間第6主日	世界病者の日
14 (水)	灰の水曜日 (大斎・小斎)	ミサと灰の式 7:00 12:00 19:00 傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 四旬節の期間中愛の献金
16 (金)		十字架の道行 18:45 マリア聖堂 (聖週間前までの毎金曜日)
18 (日)	四旬節第1主日	洗礼志願式 10:00 ミッション2030 黙想と分かち合い 13:30 ヨセフホール
21 (水)		クリプタに安置され2月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 2024年新春セミナー「気候危機について」 18:30 ヨセフホール 使徒的勧告『ラウダーテ・デウム』 「カトリック教会による国際的なアドボカシー」 講師：成井大介 新潟教区司教
25 (日)	四旬節第2主日	日曜サロン・ミニオリエンテーション 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール
28 (水)		傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。  
最新情報はイグナチオ教会ホームページでご確認ください。

### ●新協力司祭●

1月からグエン・バン・テー神父が聖イグナチオ教会協力司祭としてベトナムから着任されました。日本語を学びながらベトナム共同体の司牧を中心に活動されます。よろしく願いいたします。



### ●『マジス』発送準備作業●

「グループつなぐ」ではご希望の方への『マジス』発送準備作業を行っています。2月から活動時間が変わりました。お手伝いくださる方はお間違いのないようお越しく下さい。

- ・活動日：毎月第2木曜日(1月・9月はお休み)
- ・時間：13:00~15:00頃
- ・場所：信徒会館203A

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス

グエン・タン・ニャー

サトルニノ・オチョア

柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス

ハビエル・ガラルダ

グエン・バン・テー

関根 悦雄

マヌエル・シルゴ

シスター：イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

#### ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel  
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel  
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00  
12:00 (English) /13:30 (Español) /  
15:00 (Việt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】  
Our Lady's Chapel  
12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】  
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

### カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083

千代田区麹町 6 - 5 - 1

TEL 03 - 3263 - 4584

FAX 03 - 3263 - 4585

<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。